

ときを越え
受け継がれるもの

鳴石神社

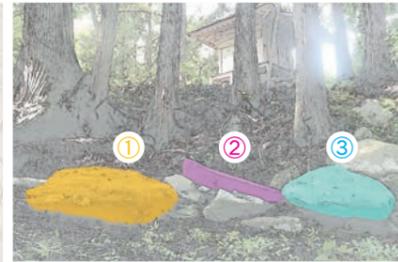
江刺区広瀬字七日市

鳴石神社は音石権現社とも呼ばれ、県道沿いの音石神社から、北に500mほどの山中にある。神社内には男石、女石、枕石、座頭石、獅子石の五つの名石があり、小石で打つと金属音を発して鳴ることから「鳴石」の名がついたという。

周辺の「軽石」という地名も、この石にまつわる伝説が由来と安永風土記では伝える。かつて、この地を訪れた佐藤秀衡が、庭園の石にしようと男石を運べたが100mほどで動かなくなり、女石や枕石を募って鳴り出したので放置したところ、どこからか現れた貞春という座頭が石を軽々と運んで元の場所に戻したために、この地を軽石村と名付けたというのだ。

名石五つに跡附石、枇杷箱石を加えて七つ石と称したともいうが、周辺の整備に伴い四つは姿を消した。今は男石、女石、枕石を残すのみである。

※原文まま。平泉の藤原秀衡とする説有



男石、枕石の2つは市の指定文化財であり、保護のため石で打つことは禁じられている（右図）①男石。延文6年（1361年）銘「阿弥陀三尊種子石塔婆」。高さ273cm、幅137cm ②枕石。「金剛界大日如来種子石塔婆」。高さ97cm、幅35cm ③女石

広告

